

5年 国語

一人ひとりの声を
クラスのパワーに!

番組名 「お伝と伝じろう」

放送回 第2回「しっかり聞く」

「伝わる」って、楽しい!おもしろい!
コミュニケーションの本質について
楽しみながら学習できる番組です。

実践者 千代田区立番町小学校 教諭 山田 美紀

番組の使い方

活用のねらい

本単元は、学級活動の話合いから生まれた「話す・聞く」の課題に立ち向かう単元である。「お伝と伝じろう」を活用したのは、本学級の児童が“解決したい”と考えている、コミュニケーションのあり方を考えさせる上で有効だと感じたからだ。「番組」という第三者からのアイデアを番組視聴後、すぐに実践し、検証する。児童が自分自身の『伝える』を見つめ直すきっかけになればと願っている。

具体的な手立て

「学級で話し合う時、聞き手として気をつけていることは？」と児童に問いかけ、数人の意見を聞いた後、番組を視聴する。
番組の視聴後、聞く時のポイント『うめういす』を使わない聞き方と、使う聞き方を児童が二人一組になって体験し、日頃の聞き方を見直す契機となるようにする。

授業の概要（1 / 3時間目）

単元の目標

話の内容や話し手の意図をとらえながら聞くための態度と心構えを理解し、よりよい聞き方を身に付ける。

授業の導入

話合いをする時に、聞き手として気をつけていることを振り返る。

番組視聴（10分）

- ・画面に集中できるように、視聴環境を整える。
- ・メモはとらない。
- ・担任も一緒に視聴する。

番組を振り返る

視聴した番組を振り返り、感想を学級全体で交流する。

実際に体験する

話を聞く時に注意したい5つのポイント『うめういす』を、二人一組で実践してみる。

- ①使わない聞き方で話を聞く。
- ②使う聞き方で話を聞く。
(①も②も役割を交代して、話し手の立場も、聞き手の立場も体験できるようにする。)

体験した感想を交流する

『うめういす』を使って聞くことで、相手が話しやすくなるだけでなく、会話そのものが楽しくなることをおさえる。

資料を活用する

『うめういす』を教室に掲示し、いつでも活動できるようにする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

番組の視聴

番組を笑顔で視聴する子どもたち。授業後のアンケートにも記述があったが、“みんなで一緒にテレビを見る”ということも、子どもたちにとっては、学校ならではの楽しみだと感じているようである。

実際に体験

番組の視聴後、話を聞くときに注意したい5つのポイント『うめういす』を使わない聞き方と使う聞き方を二人一組で体験。感想を尋ねると、『うめういす』を使う聞き方をすると、「話し手は、すごく話しやすい」「時間が短く感じた」と嬉しそうに話した。

授業後

話を聞く時に注意したい5つのポイントを教室内に掲示。顔いたり、真剣な表情で耳を傾けたり、話し終わるまで黙っていたりと、子どもたちの聞き方には変化が見られた。

指導を終えて

“学級の話合い活動を何とかしたい!”という子どもたちの悩みを解決するべく取り組んだ本単元。全3時間の各授業に「お伝と伝じろう」を視聴した。

授業を終え、その後の話合い活動の様子から、子どもたちの表情が明るくなってきていることを感じている。「お伝と伝じろう」では、その道のスペシャリストが登場する回もあり、まるでゲストティーチャーを呼んだ時のような効果があるのも、とても魅力的である。

今回の実践を通して、子どもたちの多くが番組を授業で活用することについて好意的にとらえていることもわかり、今後も継続視聴したいと考えている。

